

YMCAオリーブ保育園

～園が大きな家族に～

開設21年目を迎えました。昨年度から始まった「体操プログラム」は今年度、課外教室『ふれあい運動あそび』（3・4・5歳児対象）へと広がりました。子どもたちには心と体を動かし、YMCA保育のコンセプトでもある『精神・知性・身体』の調和のとれた成長を大切にしたいと思っています。

夏には、卒園児の小学生ボランティアを迎えます。保護者も楽しみにされていて『卒園してもつながっているもう一つの居場所』になっているのだと思います。さらに卒園児が大学生となり、保育実習生として戻って来たときには20年保育を続けてきた成果だと感じました。

これからも職員全員で子どもたちを見守っていくあたたかい保育を実践し、オリーブ保育園に通う園児・保護者・職員全員が一つの大きな家族となり、巣立った子どもたちがいつでも遊びに来られるような園を目指します。

（園長 矢野久美）



芝浦アイランドこども園

～心のふるさとになるように～

港区芝浦アイランドこども園は開園20年を迎え、その歩みの中で、地域の中で子どもたちの成長を見守ってきました。

2026年度は在園児141名でスタートしました。

子どもたち一人ひとりが「愛されている」と実感できるように、小さな子どもの人権を大切に、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、居心地の良い場所として園が“心のふるさと”になるよう努めています。

日々の丁寧な言葉掛けを心がけ、園での遊びや園生活のなかで子どもが本来持っている力を信じ、自分で選び進めていけるように保育を行っています。

昨年度、とうきょうすくわくプログラム（東京都）で園庭に二つ目の砂場を造りました。違う種類の砂で遊べるようになり、子どもたちの遊び方にも変化が生まれ、乳児も幼児もそれぞれの砂場で工夫しながら遊ぶようになりました。これからも遊びの可能性がひろがるように環境を整えていきます。

今年度も家庭や地域と連携し、子どもを中心に考えて、未来を生きる力の基礎を育んでまいります。

（園長 興津夏子）

インターナショナルキッズガーデン

～中心になるコミュニティとして～

キッズガーデンでは今年一年を通して「意図を持つこと」を大切に、子どもたちが快適に過ごすためのより良い環境をつくります。

環境は「第三の先生」と考えています。その空間が自然に子どもたちの“気づき”や“学び”を引き出します。

子どもたちが「なぜ?」「どうして?」と感じ、自分の言葉で考え、伝えたいくなるような環境を目指し、「今日はこんなことをしたよ!」と、家庭でもその学びを共有したくなるような経験を大切にしていきたいと思っています。そして、その中心となる「コミュニティ」を築いていきます。

ご家庭やスタッフと一緒に、子どもたちが安心して過ごし、人とのつながりの中で学びながら成長していく環境が、まさに私たちの目指すコミュニティであります。

YMCAの価値である「思いやり・誠実さ・尊重・責任」を大切にしながら、子どもたち一人ひとりの好奇心と自信を育んでいきます。

（園長 レベッカ ワングイ）



愛されて育まれるYMCAの教育・保育

小さな命に寄り添って

江東幼稚園の開設から75年。東京YMCAの教育・保育は子どもたちが、「いつも『愛されている喜び』を体感できるように」「自分が『大切な存在である』と感じられるように」努めています。

YMCAキャナルコート保育園

～世界に羽ばたく土台をつくる～

今年度キャナルコート保育園には日本を含めロシアやウクライナなど世界10か国にルーツのあるお子さんが在籍しています。

多様な文化や国際的な背景にある家庭のお子さんにも安心して通える保育園を目指し、語学が得意な保育士は英語で対応し、翻訳アプリを使ったり身振り手振りを交えて話したり、その日の様子を伝えようと時にはイラストを見せたり、試行錯誤の日々があります。

保育士の中にはシリアが母国の先生がいて、同じ地域から日本に来たお子さんにとっては、とても安心感があるようです。

子どもたちには皆、遊びの中でさまざまな文化や言葉に触れることを大切にしたいと思っています。ありがたいことに、異文化交流ができる環境にありますので、それを楽しむことが自然になるようにと思います。

園での関わりが、世界に羽ばたく子どもの土台を作るサポートになるように、子ども・保護者・地域が保育園を通してつながり、キャナルコート保育園が東雲エリアの異文化交流のハブとして、地域の子育て支援がより活発になるように取り組んでいきたいと思っています。

（園長 藤野恭子）

YMCA保育園 ねがい

～五感を感じる時間を大切に～

東京YMCAの一番新しい認可保育園として、7年目を迎えました。

開園時に植えた葡萄の木は実を結び＝写真、子どもたちと話し合った「おやつジャムサンド」になりました。

恵まれた自然の中、五感で不思議を感じ、心が揺り動かされる出来事に興味を持って「なぜだろう」と考えながら、全身を使って表現する経験を大切にしています。

その多様な気持ちを表現する経験を豊かにするために「造形プログラム」を保育に取り入れています。全身で砂や水、クレヨン、絵の具、粘土などを使って「楽しい」「悲しい」といった、いろいろな気持ちを表現できるように、子どもが『できた!』と満足するまで見守ります。

保育園ねがいは、子どもも大人も違いを認め合い、お互いを慈しみ、大切な存在として育ちあう保育の場になるように歩み続けます。

（園長 今井世都）



しののめYMCAこども園

～幼保連携の特徴を活かす～

「こども真ん中」の保育を実践し

①子どもたちにとって毎日がトキメキにあふれ、新しい発見や喜びに満ちた「トピックス」になるような環境つくること。

②教育方針『互いに愛し合いなさい』の思いを込めて、一人ひとりの子どもの命と育ちを大切にすること。

③安心して自分らしく過ごせる環境と、子どもと大人が育ち合う「教育・保育」を目指すこと。

を中心に歩みを進めています。

子どもが自ら考え、感じ、表現しながら仲間と関わる中で、人を思いやる心や豊かな感性を育てていきます。また、幼保連携の特徴を活かし、すべての園児を園全体で支える体制を整え、途切れのない関わりを大切にします。地域との関わりでは引き続き、卒園児が多く在籍する「江東きっずクラブ東雲第三」との交流も続け、在園児の入学への期待と不安に寄り添えるようにと考えています。

さらに職員同士も支え合い学び合うことで保育の質を高め、保護者ともしっかりとつながりながら、子育ての喜びを分かち合える園づくりを目指していきます。

（園長 水澤 聖）

誰もが笑顔になれる居場所へ おいでよ! Yへ

すべての人が尊重され安心してつながることできる「居場所」には、いろいろなカタチがあります。
東京YMCAは、多様な背景にある人びとと共に子どもたちやユースが自分を選びながら、楽しく居られる場をつくっています。

多文化共生スペース ▽(さんかく)

▽(さんかく)は、プログラムの一つとして、日本に住む外国にルーツのある子どもたち(小学生・中学生)が日本語を覚えて、安心して生活することができるよう【にほんご・学習サポートクラス】を実施しています。参加者は宿題をもつてきたり、保護者が用意した日本語ドリルで勉強をしたりしています。一人ひとりのペースを大切にしながら、地域の学生や社会人ボランティアが寄り添っています。学習支援だけでなく、カルタで遊ぶなど、異なる世代や文化が



キャンプで思い思いにぬりえを

つながる場にもなっているのが特徴です。
また、生きづらさを抱えている若者(18歳以上のユース)の居場所として、月に1〜2度実施している【食事の会】では「皆で一緒に食べる」をコンセプトに、手巻き寿司パーティーやお弁当の時間を設けています。さらに障がいのある方の余暇活動「CoX.Co」(外出プログラム)など、ほとんどの場面や時間を通して「つながり」を感じることができることを目指しています。

ある子どもたち(小学生・中学生)が日本語を覚えて、安心して生活することができるよう【にほんご・学習サポートクラス】を実施しています。参加者は宿題をもつてきたり、保護者が用意した日本語ドリルで勉強をしたりしています。一人ひとりのペースを大切にしながら、地域の学生や社会人ボランティアが寄り添っています。学習支援だけでなく、カルタで遊ぶなど、異なる世代や文化が

東雲児童館

(職員 鈴木俊明)

『今日、ポップコーンある?』扉をあけて入るなり響いてくるこの言葉は、児童館に遊びにくる中高生の合言葉になっています。

東雲児童館では中高生の居場所づくりの一環として、毎週水曜日に『しのかめCafe』を開催しています。子どもたちにドリンクを提供しています。
ある時スタッフが手作的ポップコーンをふるまったり子どもたちと大好評。それ以来、水曜日にはポップコーンづくりを進めています。スナックが作るポップコーンもその取り組みの一つです。これからは地域のなかで、中高生がほっとできる場所として歩み続けます。

芝浦アイランド 児童高齢者交流 プラザ

港区立芝浦アイランド

児童高齢者交流プラザ(あいぷら)は、乳幼児から高齢者まで誰でも安心して過ごせる「地域の居場所」として20年間歩み続けてきました。
小学生にはドッジボールなどの「運動あそび」や教材を利用した「テーマを決めないワークタイム」など、仲間と体験を共有する機会をつくっています。
カフェ形式のプログラム「中高生カフェNeo」では「中高生の本音」

に耳を傾けます。ファミリースポーツや年に1度の「あいぷらまつり」など世代間のつながりを深めるイベントにも取り組んでいます。
子どもたちが主体的に関わる企画や「やってみよう」という気持ちを見につけられるようにする時間と空間をつくり、職員は時間の許す限り一緒に過ごし関わる「寄り添う」ことを大切にしています。
一人ひとりが自分らしくいられ、自然に関わり合う関係を大事にしながら、ともに育ちあう地域の拠点になるようにしていきます。

世代を超えてつながる育む ユースの現場から

ユースの現場から

YMCAには、幼児から中高生の野外活動(キャンプなど)を支える存在「ボランティアリーダー」(以下、リーダー)がいます。
彼らは運営の担い手としてはもちろん、子どもたちにとって最も身近な「少し年上のお兄さんお姉さん」として、大きな影響を与えています。地域社会でのつながりなど、子どもを取り巻く環境が大きく変化している時代において、キャンプは年齢の異なる仲間と一緒に生活し、他者の姿から学ぶことのできる貴重な機会となっています。
年上のリーダーの生活から何かを感じたり、中高生がリーダーの姿に触れることは子どもたち

YMCAが家庭や学校に次ぐ「第三の場」として、子どもたちの心と体の成長を支える存在でありたいと願っています。特に重要なのは、中高生から大学生へ、大学生からボランティアと協働するプログラムなど、さまざまな実践の場が、その学び



(主任 杉原雅俊)

たのか、そう問い直すこともなく、シンガポールは日本による侵略を受け、招待に感謝しつつ、新たな交わりが生まれていくことを願っています。
太平洋戦争の開戦後までもなく、シンガポールは日本による侵略を受け、招待に感謝しつつ、新たな交わりが生まれていくことを願っています。

野の花、空の鳥

東京YMCA総理事
星野 太郎



は、かつての方向へ戻っていくのか——そんな危惧を覚えます。そうした中で、新聞の投書欄に高校生のこんな言葉がありました。

「憲法は、自分や友人が戦火におびえず、未来を描ける日常を守るための命綱だ。とても重みのある言葉です。」

憲法記念日

いま、私たちの平和の拠り所とされてきた憲法を、東アジアの責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和改正しようとする動きが活発化しています。「不戦」の国から「武力を増やして戦う」国へと変わりを、自覚し直す時でもあります。

一方で、私はこの歴史をどれほど学び知ってき

先日、メトロポリタンYMCAシンガポール



野外教育・ユースは、その歩みを支え、世代を超えたつながりの中で、一人ひとりの可能性を育んでいく場であり続けたいと考えています。
野外教育・ユース
MD 嶋山徹郎

《ボランティア大募集》

▽(さんかく)のサマーキャンプに一緒に行きませんか。

日本で暮らしている外国にルーツのある子どもたちと楽しい夏を過ごしてください。高校生・大学生を募集しています。

日程: 2026年8月21日(金) ~8月23日(日) (2泊3日)

詳細はHPをご覧ください。



多文化共生スペース▽(さんかく)

INFORMATION

■早天祈祷会(6月)■

聖書について会員有志が自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスマスでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2026年6月1日(月)

7:00~8:00

奨励者：太田直宏氏

(日本YMCA同盟総主事)

会 場：山手センター／オンライン

問合せ：会員部(03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援してくださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



参加した子どもたち

カンボジアでいのちを守る講座を
ウォーターセーフティ

2月26日から3月7日まで、「Swim for Safety Cambodia」(主管:大阪YMCA)に参加し、カンボジアYMCAや台南のスタッフとともに、現地の子どもたちへ向け「水上安全プログラム」を行いました。

カンボジアは川や池、雨季の冠水など水が生活のすぐそばにある一方、経済的・教育的な背景から、安全に関する知識や体験の機会が限られている子どもたちもいます。2年目の今年は「水の安全」について子どもたちへの継続的な学びの機会に加え、現地スタッフやユースボランティアへの指導者トレーニングも行われました。

参加した94人の子どもたちには、水辺で安全に過ごす知識をお話し、実際にプールで「水に慣れること」「浮いて待つこと」「落ち着いて呼吸を確保すること」など、いのちを守るための基本を伝えました。

初めは緊張した様子の子どもたちも徐々に水に慣れ、親しめるようになり、自信をもって挑戦していました。言葉の違いを越えて、一緒にできた喜びを分かち合う時間は、非常に印象深いものとなりました。

この経験を一過性のものとせず「東京YMCA VISION150」のもと、アジア地域に広めていきたいと考えています。今後も、水の安全についての知識と体験の機会を届け、一人でも多くのいのちを守る活動を続けていきます。

(ウエルネスガーデン品川 御殿山 AD 澤村奈緒)



右端が澤村さん

東京YMCA公式SNS

Instagram	x (旧Twitter)	Facebook
https://www.instagram.com/tokyoymca/	https://x.com/Tokyo_YMCA	https://www.facebook.com/tokyoymca



オレンジリングを手に

近年「もの忘れが増えた気がする」「家族の認知症が心配だ」と感じる方が増え、認知症は今や地域全体で、向き合うべき課題となっています。高齢化が進むなか、誰もが当事者になり得る問題として「認知症」への正しい理解と地域での支え合いの仕組みづくりが今求められています。

ワイズメンズクラブ東新部(YMCAサポート団体)は、東京YMCA会員部と共催で「認知症サポーター養成講座」(厚生労働省所管)を3月19日に山手コミュニティセンターで開催しました。

「認知症の基礎知識や症状の特徴」「接し方のポイント」「地域での支援体制」など専門的な内容を、初めて学ぶ方にも理解しやすいように説明がなされ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

短期水泳教室
リトミック

水と仲良く／感性を豊かに

お申し込み開始

6月2日(火)

12時30分スタート



短期英語スクール

生きた英語に楽しくふれる

お申し込み開始

5月12日(火)

12時30分スタート



キャンプ

自然の中で仲間とのびのび過ごします

お申し込み開始

5月21日(木)

12時30分スタート



1の証である《オレンジリング》が渡されました。参加者からは「身近な課題として理解が深まった」「地域で支え合う大切さを実感した」といった声が寄せられ、YMCAらしい「『みづかる。つむ』理念にも深く通じる取り組みです。今後関係機関と連携しつつ、地域での共生の輪をさらに広げる講座となることを願っています。」

峰 毅